創作において自由なる競別

2023年9月16日[土]-11月12日[日]

場:展示室 1

休 館 日: 毎週月曜日 (ただし9月 18日、10月 9日は開館)、9月 19日 (火)、10月 10日 (火)

開館時間:午前9時30分一午後5時(入館は午後4時30分まで)

観 覧 料:一般 800 (640)円、大高生 400 (320)円

*() 内は 20 名以上の団体割引料金 *中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者 1名、群馬県民の日(10/28) に観覧される方は無料

催:群馬県立近代美術館

企画協力: 創絵社

世紀に興隆したポスターに新しい表現の可能性をみいだした芸術家たちは、互いに競うよう りに、観る人の印象に残る作品を創り出し、やがては個展や出版物の告知など、自己宣伝にも 活用していきます。さらに20世紀半ばには、高い技術と芸術性をあわせ持つ印刷所ムルロ工房 が、美術館や画廊の展覧会ポスター制作を担い、芸術と広告の領域をさらに融合させました。本 展では、約160点の作品により、シェレ、ミュシャ、ビアズリーら19世紀の先駆者たちの試み、 シャガール、マティス、ピカソ、ミロ、ダリら20世紀の巨匠たちによるポスター芸術の確立と、 戦後の展開をたどります。色鮮やかで心躍るポスターの競演を、どうぞお楽しみください。

〈秋のミュージアム・レクチャー〉※2F講堂、申込不要

(定員100名)・参加無料

1記念講演会

ヒ

0

掘

ラク今日

Excavation Today

10月7日(土)午後2時-3時30分

「19世紀末から20世紀のポスターの流れ-芸術家たちの自

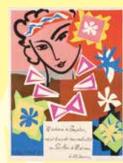
講師:河野泰久(福井市美術館副館長•本展図録執筆者)

②特別館長によるスペシャル・トーク 10月22日(土)午後2時-3時30分

「ポスターの黄金原理ー美しいグラフィック・デザインと 芸術のための広告」

- 講師:岡部昌幸(当館特別館長・帝京大学名誉教授) ③学芸員による作品解説会(レクチャー) 11月3日(金•祝)午後2時-3時
- ●学芸員による作品解説会(ギャラリートーク)展覧会会場、 申込不要•要観覧料 9月30日(土)、10月18日(水)午後2時-3時





アンリ・マティス《パリ装飾美術学校の舞踏会(ポンパドール夫人)》 1951年、個人蔵

2023年9月16日[土]-12月19日[火] 王鈴 古木

場:展示室 4、5

休館 日:毎週月曜日 (ただし 9/18、10/9、11/27、12/11、12/18 は開館)、9/19 (火)、 10/10 (火)、11/13 (月) ~ 23 (木)、12/4 (月) ~ 8 (金)、12/14 (木)

観覧料:一般300(240)円、大高生150(120)円

主 催:群馬県立近代美術館

賛:株式会社ジンズホールディングス、アニエスベージャパン株式会社、株式会社ヤマト

カ:白井屋ホテル、rin art association

本ヒラク(1978 -)は2008年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了後、シドニー、サンパウロ、ロンドン、ニューヨーク、ベルリン等で滞 在制作を行い、現在は同大学院美術研究科グローバルアートプラクティス准教授 を務めながら国内外で作品を発表しています。鈴木は線をかく行為=ドローイン グを「発掘」ととらえ、平面、彫刻、映像、パフォーマンス等によりその概念を拡 張する制作活動を展開してきました。今回は、多孔質の溶岩を画面に取り付けた 新作絵画によるインスタレーションを中心に、人類最古の壁画が残された洞窟か ら人知を超えて生成と消滅が繰り返される宇宙空間へと、描くこと/書くことの 起源と未来を探求する展示となります。

「関連イベント]

・ライブドローイング+トーク

9/16(土) 15:30~16:00 展示室内 [要観覧券・申込不要] ・クロストーク 鷲田めるろ(十和田市現代美術館館長/ 東京藝術大学 准教授)×鈴木ヒラク

11/4(土) 14:00~15:30 講堂 定員100名(先着順) [聴講無 料・申込不要] 主催:群馬県立近代美術館友の会

・ライブドローイング ゲスト:FUJI||||||||||||TA(サウンドアーティスト) 12/2(土) 15:30~16:30 展示室内 [要観覧券・申込不要] ・学芸員による作品解説会

10/8(日)、11/8(水) 各日14:00~15:00 展示室内 [要観覧券・申込不要]



《隕石が書く(S/M) #2》2023年 Photo by Chen Hsin Wei

© Hiraku Suzuki Studio

 \geq

(1)

 \mathbf{Z}

 \square

 \supset

()

 \exists

 \geq

こびも+おぐは+夏の美術館 レポート

夏休み期間中、募集制のワークショップや、自由に参加できるミニワークショップ、開館中いつでも手に取って館内を巡ることができるワークシートなど、様々なプログラムを実施しました。幅広い世代の総数 2,542人の方々にご参加いただきました。これを機に、美術をより身近に感じ、今後も美術館に親しんでいただければ幸いです。

開催期間:2023年7月22日(土)~8月27日(日)

●ワークショップ「耳つき絵画をつくろう」【要申込/無料】

7月22日(土)13:00~16:00

講師:原游(アーティスト)※オンライン参加

場 所:アトリエ

対 象:小学生~一般(小学 3 年生以下は保護者同伴)

参加者数:24名

講師の原游さんは急遽オンラインでの参加となってしまいましたが、参加者はそれぞれ画面越しに原さんからアドバイスをもらいながらカンヴァスの耳の使い方を工夫し、アクリルガッシュや水性顔料インクのペンで描いて、オリジナリティあふれる作品を仕上げました。

●夏のミュージアム·スクール「色·形·構図の基本を知れば、キミもアーティスト!」【要申込/無料】

7月29日(土)、8月5日(土)、19日(土) 各日14:00~16:00

講師: 当館職員

場 所:アトリエ、シアター 対 象:小学4年生~一般

参加者数: のべ 48 人

第1回「形」、第2回「色」、第3回「構図」をテーマに、美術表現の基本をワークシートによって体験しながら学びました。少し難しい専門的な知識も含まれていましたが、今後の美術制作や鑑賞だけでなく、日常生活にも活かしていただける内容となりました。

■ミニワークショップ「ぱたぱたバード」【申込不要/無料】

毎週日曜日(7月23日、30日、8月6日、13日、20日、27日)各日10:00~16:00

会 場:アトリエ 参加者数:593人

色画用紙から鳥の胴体と翼を切り抜き、割り箸に固定してパタパタと羽ばたく鳥を作りました。色鉛筆やペンを使って目やくちばし、その他自由に模様などを描くことで、形は同じでもそれぞれ個性的な鳥ができあがりました。

■ミニワークショップ「おりがみお手玉」【申込不要/無料】

毎週木曜日(7月27日、8月3日、10日、17日、24日) 各日10:00~16:00

会 場:アトリエ 参加者数:320人

折り紙を2枚組み合わせて、カラフルなお手玉を2個ずつ作りました。折りはじめの紙の表裏を間違えないように、そして折り上がった2枚を組み合わせるポイントではスタッフのサポートが必要でしたが、2個目は皆さんスムーズに完成させていました。

■いつでも参加できるワークシート「美術館たんけん MAP」【申込不要/要観覧料】

7月22日(土)~8月27日(日)

参加者数:1,557人

エントランスでおとな向け、こども向けの2種類のワークシートを配布、手に取った参加者には、建築や展示室の特徴、ヒントで示された展示作品を探しながら、全館をくまなく回っていただきました。答え合わせまで終えた方には、絵葉書またはオリジナルぬりえをプレゼントしました。



耳つき絵画をつくろう



夏のミュージアム・スクール



ぱたぱたバード



おりがみお手玉



美術館たんけん MAP

T o p i c s

公式 Instagram アカウント開設のお知らせ

当館では、これまで公式ソーシャルメディアとして運用してきた X (Twitter から名称変更) と Facebook に加え、今年度新たに Instagram のアカウントを開設しました。X や Facebook では展覧会やイベントに関する情報を主として発信していますが、Instagram では、当館の雰囲気を感じられるような写真や、美術鑑賞の一助となるようなコレクション紹介なども投稿していきます。

タイムラインを眺めている人がアートに触れてほっと一息つけるような、そして美術館への扉の一つになるようなアカウントを目指しています。ぜひそんな当館の Instagram をフォローして、美術館をより身近に感じていただけたら幸いです。



GUNMAKINBI

Collection

コレクション展示

■日本と西洋の近代美術Ⅲ 9/16~12/19

当館の所蔵作品より、群馬ゆかりの洋画家たちの作品をはじめ、明治から昭和にかけての日本近代洋画、ならびにモネやルノワールら印象派画家からピカソまで、19、20世紀ヨーロッパを代表する作家たちの作品を紹介します。



塚本茂《読譜》 1934年

[展示室3]

「展示室 2・6]

■現代の美術Ⅲ 9/16 ~ 11/12

多彩な表現による 20世紀後半以降の美術を紹介します。



上田薫《なま玉子》 1975年

「展示室4・5]

■特別展示「鈴木ヒラク 今日の発掘」

 $9/16 \sim 12/19$

*詳細は表紙をご覧ください。



《Constellation #23》 2018年 個人蔵

[展示室 7 (山種記念館)]

- ■群馬の日本画家 I 9/16 ~ 10/22
- ■群馬の日本画家 II 10/24~12/19

秋期の山種記念館では、小室翠雲や礒部草丘、福田元子、髙橋 常雄など群馬出身の日本画家たちを二期にわたりご紹介します。



小室翠雲《山水図屛風》 1923(大正12)年

Museum: Shop

友の会だより

◆ミュージアム・ショップより

ミュージアムショップでは様々な商品をお取り扱いしております。その中から今回は、高崎市在住の作家 Atelier muuco (アトリエ ムーコ) の商品を紹介させていただきます。

当ショップでお取り扱いしている Atelier muuco の商品は、アクセサリー(イヤリング、ピアス、ネックレス、ブローチ)とトートバッグ、ランチバッグ、ブックカバーです。アクセサリーには主に低温度硬化型粘土が使われていて、アクリル絵の具等で色付けされています。そしてアクセサリーのモチーフには満月や銀河、ハトやフクロウ、そして鳥の卵など ... ムーコさん自身が心ひかれたものたちが素敵にあしらわれています。トートバッグ等の布製品に描かれているのは彼女の思いがギュッと詰まったオリジナルキャラクターの「ムーコ」で、初めて手にしたお客様が思わず微笑んでしまう人気者です。

美術館にご来館の際には、ぜひミュージアム・ショップにもお立ち寄りいただき Atelier muucoの商品をお手に取っていただけたらと思います。



上段左から時計回りに「白ハトの卵」「満月 (ブローチ)」 「白ハト」「白フクロウ」「銀河」「カラスの卵」

お問い合わせ: 群馬県立近代美術館 友の会 TEL 027-346-5560 (館代表) / FAX 027-346-4064

m

期 馬県高崎市出身の深井隆 (1951-) は、主に樟を用い、翼のある椅子や馬などをモチーフとしながら、そこには登場しない人間の存在を問い続けている。

《風景-悠久なる一日ー》は、「第6回群馬青年美術展」で優秀賞を受賞し、当館に収蔵された作品である。群馬青年美術展は、群馬県出身者や在住者など、群馬県に関係する若い世代の作家のための公募展で、後に全国規模で隔年の公募展「群馬青年ビエンナーレ」に発展し、現在に至っている。深井は東京藝術大学大学院修了直後から、故郷で行われているこの公募展に積極的に挑戦し、第5回展では《本のある風景 —創朝記—》で奨励賞を受賞、学外で初めての受賞となった。二十代最後の応募となった第7回展でも《三つの椅子の風景 —記憶》で奨励賞を受賞している。

どの作品も椅子をモチーフとして、椅子の上に開いた本やリンゴが乗って いるものもある。本作には電話の受話器が加わり、主人公であるはずの人間 の不在が際立っている。深井の作品には、奨励賞を受賞した2つの作品のよ うに2点あるいは3点組の作品が多く、例えば2点組の椅子は、後に金色の翼 をつけた《王と王妃》(2018年)のような作品に展開している。人物像でいえ ば群像表現といえるものであり、人と人との関係が次なる物語の展開を想像 させる。初期から深井は動かない椅子によって作品の中に物語を想起させた いと語っているが、「そのやり方は古くさいとわかっていた」という。大学入 学当時、ミニマル・アートに憧れて、抽象的な作品を作りたかったというが、 やがて「古いやり方の方が信頼できる」と思うようになり、あえて具象的なモ チーフを使い、「物語」を空間に入れ込むようになった。それ以来一貫して存 在、時間、生と死などをテーマにし、昔から変わらないはずの人間の本質を 追求した。群馬青年美術展の3つの作品タイトルに共通する、作者の心の中 にある「風景」は、2004年以降に制作された「月の庭」シリーズでは金箔や銀 箔を用いた馬が登場する心象風景に姿を変え、自らが好む琳派の世界に近づ いている。



深井隆《風景-悠久なる一日-》1980年 木 125.0×170.0×85.0cm 作者寄贈

次回展覧会案内

長谷川 潔 銅版画の世界

2024年3月2日[土] -4月7日[日]

会 場: 展示室 1 **休 館 日:** 毎週月曜日

開館時間:午前 9 時 30 分-午後 5 時(入館は午後 4 時 30 分まで)

観 覧 料:一般 300 (240)円、大高生 150 (120)円

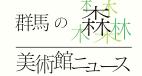
*()内は20名以上の団体割引料金

*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

○ 谷川潔(1891-1980)は、20世紀の版画史にその名を刻む銅版画家です。 大正期に青年時代を過ごし、日本の創作版画の草創を担った長谷川は、1918年に銅版画技法習得のためフランスへと渡り、以後帰国することなくさまざまな銅版画の技法で制作を続けました。とりわけ、19世紀の写真の登場以来廃れていた銅版画技法マニエール・ノワール(メゾチント)を再興した功績により知られ、その静謐で深遠な作品が国際的に高く評価されています。当館へ新たに寄託された個人コレクションからなる本展では、渡仏後に制作された銅版画を中心に、鉛筆デッサンや渡仏以前の木版画など貴重な作品を含む110余点を紹介します。自然をみつめる精緻な観察眼と研ぎ澄まされた描写力が結実した長谷川潔の版画の世界をご堪能ください。



《小鳥と胡蝶》1961年 マニエール・ノワール 個人蔵





群馬県立近代美術館

〒370-1293 群馬県高崎市綿貫町992-1 TEL 027-346-5560 FAX 027-346-4064 https://mmag.pref.gunma.jp

デザイン: 寺澤事務所・工房 印 刷: 上毎印刷工業株式会社